

在宅医療を受けながら、自宅で過ごす日々。そこには、一人ひとりの暮らしや家族の思いがあります。今回、自宅で家族を看取った方と、現在も在宅医療を受けながら暮らしている方に、それぞれの経験や想いを伺いました。

ここでは、さまざまな選択肢があるなかで、自宅で過ごすことを選んだ方々の声を紹介します。



Feelings

01 自宅で家族を看取った方の想い



出水敦子さん（大里）
出水二三さん（大里）

妻 夫は90歳まで本当に元気で、亡くなる少し前まで車を運転して、庭の草取りもしてくれました。病気が分かってからは、あつという間でしたね。

娘 父はもともと人付き合いがあまり得意ではなく、病院も好きではなかったの、「家で過ごすのが一番いいんじゃないか」と家族で考えました。

妻 家で看取ると決めても、「痛がったり、苦しんだりしたらどうしよう」という不安はありました。しかし、先生や看護師さんが来てくれたので心強かったです。夜には二人で話すこともでき、短い時間でしたが、一緒に過ごせてよかったと思います。

娘 自宅で過ごしたことで、家族も自然に集まることができました。大変なこともありましたが、父が慣れ親しんだ家で家族に囲まれて過ごせたことは、本当によかったと思っています。

妻 最期も家族みんなでそばにすることができました。今振り返っても、自宅で看取ることを選んでよかったと思います。



田中昌枝さん（阪松原）

夫は入院中も「家に帰りたい」と何度も話していました。病院や施設で過ごす選択肢もありましたが、本人の希望をかなえてあげたいと思い、家族で相談して自宅に迎えることを決めました。

不安がなかったわけではありませんが、訪問診療の先生や訪問看護師、ヘルパー、ケアマネジャーなど、多くの方が支えてくれたことで、自宅での生活を続けることができました。

夫は家に帰ると表情も明るくなり、好きなものを食べたり、近所の人や知人と会ったりしながら、住み慣れた家でおだやかに過ごしていました。最期の日も家族がそばにあり、支えてくれたみなさんにも見送ってもらうことができました。寂しさはありますが、本人が一番望んでいた場所で過ごせたことに、後悔はありません。

自宅での看取りは家族だけで抱えるものではありません。支えてくれる人たちのおかげで、安心して寄り添うことができました。最期まで一緒に過ごせた時間は、家族にとってかけがえのない宝物です。

Feelings

02 住み慣れた自宅で在宅医療を受ける方の想い



福本雅子さん（成川）

親戚から「いい先生がおるよ」とくまのなる在宅診療所の濱口先生を紹介してもらったのが、在宅医療を利用するきっかけでした。実際に診てもらうようになって、一番ありがたいのは病院まで行かなくても、家で診てもらえることです。病院へ行くととなると、移動したり、待ったりするのもだんだんと負担になるので、それがないだけでも本当に助かっています。

私は、動けるうちはできるだけこの家で暮らしたいと思っています。自分で食事作り、ヘルパーの方や買い物の配達サービスにも助けてもらっています。息子も毎朝電話をくれて、近所の人もよく声を掛けてくれるので、今のところ困っていることはありません。

年を重ねると、当たり前と思っていたことが、本当はありがたいことだったと分かってきます。家族がいて、まわりに気に掛けてもらい、こうして自分の家で暮らせている。家にいて、先生に来てもらって診てもらえることが、何よりうれしいですね。



前地洋美さん（井田）
前地寛也さん（井田）

妻 くまのなる在宅診療所の濱口先生が在宅医療を行っていることを知り、夫婦で話を聞きに行きました。主人が寝込むようになったことをきっかけに、自宅に来てもらうようになりました。今では月2回、夫婦そろって診てもらっています。

夫 先生とは体のことだけでなく、昔の話やいろんな話ができるのがよいですね。

妻 私は運転ができないので、先生が家まで来てくださるのは本当にありがたいです。何かあれば電話でも相談できるので安心です。主人は何度か入院しましたが、いつも「家に帰りたい」と言っていました。

夫 やっぱ家が一番。家には、あったかいものがあるような気がするんです。最期までこの家にいたいですね。

妻 これから病状が変わったときの不安もありますが、できるだけ主人の願いをかなえてあげたいと思っています。

夫 これからも家で過ごしたいです。そのためには、妻の言うことをよく聞くのが大切ですね。



北茂友さん（鶴殿）
北安得さん（鶴殿）

夫は100歳を超えた今も、住み慣れた自宅で変わらず暮らしています。毎朝、新聞を読むのが日課で、食事也喜欢いせず、野菜や果物もしっかり食べるようにしています。

夫が在宅医療を利用するようになったのは、日常生活で介助が必要になったことがきっかけです。娘が手配してくれて、今は先生が月2回、自宅まで診察に来てくれます。ケアマネジャーや看護師、ヘルパーの方にもお世話になり、本当にありがたいです。

在宅医療を始めてからも、夫の生活はそれほど変わっていません。家族も近くに住んでいて、何かと気にかけてくれますし、孫たちも連絡をくれるので心強いですね。

夫は最後まで自宅で過ごしたいと言っていますし、私もこれからずっと夫を自宅でみていきたいと思っています。私自身も、やっぱり住み慣れた家が一番です。

これからも夫婦で普段どおりの生活を続けながら、支えてくれるみなさんへの感謝の気持ちを大切にしていきたいです。